

陸上運動部部便り

2015年5月号

—関東インカレ 男子2部総合4位 1部昇格ならず—

目次

1	講評	1
2	試合経過	3
3	試合結果	21
4	自己記録更新者一覧	25
5	応援OB・OG紹介	26
6	行事予定	27
7	連絡先(慶弔等)	28

1. 講評

監督・藤田靖浩

今年の関東インカレは男子総合4位、女子も久しぶりに個人種目で出場するなど、2003年の2部降格後では最も良い成績を残し、久しぶりに対校戦らしく戦うことが出来ましたが、目標としていた一部昇格は叶いませんでした。昇格の可能性が例年に無く高かっただけに非常に悔やまれる結果です。

2位の流通経済大学は85.5点中60点が投擲、3位の青山学院大学は72点全てがトラック、というように塊で大量得点、一方東大は長距離を除きまんべんなく点を積み重ねたものの、一種目で2桁得点の種目は無く、差をつけられてしまいました。個別に要因を書きはじめるときりがないので省略しますが、やはりベースの実力が少し足りなかったということかと思います。

ただ2年前の5点という状況からここまで這い上がり、チームの士気は見違えるほどになっていますし、3年生以下も昇格を現実的なものととらえ、自信もつきましたので、来年はこそは悲願の昇格を果たすべく練習に励んでいきたいと思っています。

個々の結果については、大崩れした選手も無く、自己ベストを更新した選手が多く、良く頑張りました。三段跳の吉田の優勝、槍投の奥村の3位、400mHの宮原の3位はいずれもベストを大きく更新し、期待を上回る結果ですし、800mで2位の軽部も一日2本を1分52秒台で走り、成長を見せました。また、4×100mRはバトンパスに難があったものの東大

新記録、4 × 400mR も東大記録更新が見えてきました。

残りのシーズンについては、対校戦全勝と、一人でも多くの選手を日本インカレに送り込むことを目指していきたいと思いますので引き続き応援宜しくお願い致します。

主将・藤田旭洋

今年の部が最も重きを置いている大会である関東インカレが終了しました。我々の目標は一部昇格。結果から申し上げますと、この目標は叶いませんでした。今年一部に昇格するには87.5点必要でしたが、東大の得点は53.5点(4位)でした。敗因は実力不足、それに尽きます。一部昇格という目標は、全てがうまく行けば達成できる目標という位置づけでした。しかし、現実はその甘くはなく、チームとしての余裕のなさ、個々の競技にまで過度な重圧としてのしかかる、ということ突きつけられるような結果でした。勝機を逃したというのは大いに反省すべき点であると認識しています。

ただ、3年生以下を中心に表彰台に乗った選手が多かったことは、来年こそ一部に昇格する上で大きな武器となりうるものだと思います。少し取りこぼしても二部では優勝できる、来年こそそのような余裕のあるチームになると信じています。

また、今回の関カレを通じて、部員全員が本気で関カレで勝つことを目指し始めたことも事実です。応援にも例年以上に熱が入っており、憧れの舞台から、勝つ為の舞台へと、部員の視線が変わる契機となりました。今回の結果を来年以降に繋げ、再度強い東大の時代を築いていくためにも、この悔しさを決して忘れずに、来年の関カレで一部に上がるために何をすべきか、これを常に念頭に置きこれからの練習に励んで参ります。

この度競技場までお越しになった先輩方をはじめとして、OBOGの皆様には日頃から多大なるご支援を頂いておりますこと、部員一同心より感謝してお

ります。七大戦や京大戦、そして来年の関東インカレでは朗報を以て恩返しを致しますので、これからも変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

女子主将・宮崎愛里香

今年度、女子はリレー種目での出場を断念しましたが、その一方で、1種目のみではあります但し久しぶりの個人種目出場を果たすことができました。

一昨年まで5大会連続して出場していた4 × 400mRにつきましても、標準記録を突破していたものの、400mを専門とする選手がほとんどいなかったこと、メンバーの故障や不調が重なったこと、今年度女子パートとしては個人の専門種目を大事にする方針をとっていること等を考慮し、出場を見送ることにいたしました。残念ではありますが、短距離部員を中心に4 × 100mRで標準切りを目指したいという声もすでに聞かれ、また中距離にも今年度は例年より多くの新入部員を迎えていることから、来年以降再び両リレーへの出場に期待が持てます。

個人では4年宮崎が10000mWに出場しました。女子は大学間の順位による1部校・2部校の区別がなく、全日本インカレ等で活躍するような選手も出場している中で、やはり展開は厳しく、実力差を痛感するレースとなりました。結果としては出場するだけに終わってしまいましたが、上位校の選手と同じ舞台で戦うという経験は、それだけでも選手にとって意味のあるものだと思います。幸いほかの女子部員は全員3年生以下で、来年以降出場するチャンスがあります。上述したリレーだけでなく、個人種目でも複数名の出場を果たし、さらには出場するのみならず勝負できるようになることを目指してほしいと思います。そのためにまずは今シーズンの対校戦で良い結果を残せるよう、部員一同努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

2. 試合経過

— 1 日目 —

10:30 男子 2 部 砲丸投 決勝

砲丸投げには、4 回目で最後の出場および円盤投げにも出場の宮野涼至 (5 年) と 3 日目にやり投げにも出場の奥村俊樹 (3 年) の 2 名が出場した。申請記録では 4 月の六大戦でベスト更新の 12m74 を出した奥村が 7 位、12m 前半がベストの宮野が 8 位を狙えるかという立ち位置で 2 点を取ることが目標であった。

予選 1 投目は、2 人共力が出ず、奥村が 11m44、宮野が 11m16 と厳しい立ち上がりとなった。その後、奥村はうまくパフォーマンスを發揮できず 11m31 とファールで敢え無く 15 位の結果に終わった。しかし、後輩の不調をカバーするかのよう大ベテランの宮野がここ一番の意地を見せてくれた。2 投目で自己ベストを 30cm ほど更新となる 12m64 を出して暫定 5 位につけ、3 投目はファールであったものの 7 位で決勝へと進出を果たした。

決勝では記録を伸ばすことができず、6 位も 13m50 近くで差をつけられてしまい 7 位で入賞となった。目標の 2 点も無事取ることができ、今回は最後の関東インカレの宮野は初得点で有終の美を飾ることができた。これからも安定して実力を發揮できないなど課題が見つかった奥村と共に七大戦に向けて頑張つて欲しい。

11:10 男子 2 部 400m 予選 4 組

4 組 5 レーンに小西 (4 年) の出場。台風が通過した後ということもあり天気は快晴だが気温が少々高くレース直前までの体調管理がどれだけうまくいっているかがレースを走る上で 1 つのキーポイントとなるかと思われる。関東インカレ初日のトラック最初のレースであるためチーム全体の勢いを左右するレースであるということもあって応援する側も否

応なしに緊張する。今年はぜひとも決勝まで進み点を取ってこなければならないという熱意を胸に秘める小西は同じ組に大東大や青山学院大などの強豪校がひしめく中これからの自分のレースに意識を集中できている様子である。3 9 レーンまでの 7 名でのレースとなる。序盤はまず 6 レーンを抜き、先を走る 7,8,9 レーンの 3 人に順調についていき後ろにいる 3 人の追従を許さず無難なスタート。後半から奮迅の勢いでペースを上げていき更に 2 人抜いて最後は 2 着でゴール。記録は自己ベストを更新して 48"06、最高の形で準決勝進出を決めた。400m にかける小西の熱意が応援する側にもひしひしと伝わる熱いレースでありチーム全体にも勢いがついた。この勢いで翌日の準決勝にも万全のコンディションで臨み、決勝進出を決めることが期待される。

11:30 男子 2 部 走幅跳 決勝

関カレ 1 部昇格に欠かせない得点源といえば、この種目、走幅跳である。出場者は飯島 (6 年)、西村 (3 年)、深澤 (3 年) の 3 年名。飯島は下馬評では 4 位ながら、全日本インカレの標準切りも視野に入れ、優勝を狙う。西村は、怪我明けで調整不十分とはいえ、冬が明け、部内最速と謳われるほどのスピードを身に付けており、大跳躍が期待される。深澤は GW に標準を切ったその勢いで入賞を狙いに行く。なにより、前日の 3 年吉田の三段跳優勝を受け、3 人共今までになく闘志を燃やしている。試技順は、西村、飯島、深澤の順。一跳目、西村が安定の 6m99(-0.4) で 3 位、飯島も復調の兆しを見せ、6m94(-0.9) で 6 位につける。深澤はストライドが普段より大きく伸びたためかファウル。緊張の色が見えた。二跳目、西村が魅せる。持ち前のスピードの乗った跳躍で、本人も高校時代ぶりのベストを更新し、7m23(-0.8) で試技直後は 1 位に立つ。スタンド、応援席共に湧く。飯島も順位は変わらずとも、記録を 6m98(-1.8) に伸ばす。深澤は助走位置を下げ、踏み切り板に足すらかからなかったが 6m68(-1.1) と、記録を残す。3 跳

目、西村はファウル。しかし、2位で予選通過。飯島も更に記録を伸ばし、7m02(-1.1)で7位通過。深澤は記録を6m81(-1.4)に伸ばすも、一步及ばず、16位で試技終了。決勝に移る。この時点で一位の記録は7m45。西村、飯島の力を持ってすれば届かない記録ではない。表彰台が見えてきた。応援席も期待を込める。しかし、他大の選手が7m40を越える跳躍で記録を次々と伸ばしていく。その一方で西村は4跳目、5跳目とファウルが続き順位は4位まで落ちる。飯島も7mに届かず、順位を7位に落とす。最終跳躍、西村の「おねがいします!」の声と仲間の「はい!」の声が響く中、記録は7m10(-0.3)。悔しさ、自己ベストを出せた嬉しさ、まだまだ行けるという野心、複雑な心境が表れながらも、笑顔で試技終了。飯島は、黙々と踏み切り板へ向かう。体はきれいに浮くも、6m76(-0.5)で試技終了。スタンドに手を振り、帰っていく。今回、走幅跳での東大の得点は西村の5点と飯島の2点で合わせて7点。最低でも10点は取ろうと意気込んでいただけに、悔しい結果となった。しかしこの種目、東大の現状として、来年は1部A標準を切らないと出れない程の対校拮据が繰り返されている。来年は必ずや表彰台を東大が独占して、念願の一部昇格の立役者になること間違いない。大いに期待である。

選手の言葉 跳躍4年 飯島泰成(前々主将)

怪我から復帰し自己記録を更新し、大学に残ってあと1年陸上をやると決めた昨年の8月。小さな怪我はあったものの順調に練習を積んで今シーズンを迎えました。しかし蓋を開けてみると、競技人生で一番の不調。関カレ一ヶ月前の東京選手権では、昨年の記録から1mも下回る6m26で試合を終えました。原因は踏切の感覚の欠如。今まで自然にできていたことがイメージできなくなっていました。それからは、今までにないほど踏切の改善に取り組みました。そんな中、後輩部員の一人から、助走について助言

を貰い、それを機に大幅に助走が改善され、その結果踏切の感覚も徐々に戻ってきました。そして迎えた関東インカレ。結果は7m02で7位。望んでいた記録にはほど遠かったものの、一ヶ月前の状態を考えると安心した部分もあります。

今年の東大陸上部の雰囲気は最高でした。1部昇格は達成できませんでしたが、それに向かって、僕が入部して以来最も全部員が一丸となっていたと感じます。そのような部の一員として戦えたことを、本当に嬉しく思います。今後は全カレを目標にして練習をしていきます。この一ヶ月間で得た助走動作は今までにないほどの可能性を秘めています。それをより洗練させることと、より優れた踏切動作を見つけることが、このあとの課題です。今後とも、ご声援、ご指導のほどよろしく御願いたします。



飯島は前々主将を務めた実力者

12:25 男子2部 110mH 予選1組,2組

天候は晴れ、気温も上がり風も強くなくグラウンドコンディションは整っている。1組6レーンに宮原(4年)の出場。400mHが専門であるが、ハードリングは110mHの他選手にも引けを取らない技術を持っている。1台目は倒してしまうものの、目立った遅れは取らず順調にハードルを越えてゆく。7台

目で大きく加速し 10 台目の後もその勢いは止まらない。結果 15"03 の 2 着でフィニッシュ。この時の風は +0.5m であった。申請記録の 15"49 を大きく上回り準決勝へ進出を決め、東大に勢いをもたらしてくれた。続いて 2 組 8 レーンに杉森 (6 年) の出場。関カレ直前に A 標準を切って調子の良さをうかがわせており、目標の 14 秒台も期待される。しかし、両隣に速い選手が走り意識してしまったのだろうか、5 台目以降遅れが目立ってしまう。それでも粘り強く走りきり、最後はトルソーをかけて勝負への執念を見せた。15"18 の 4 着でフィニッシュ。この時の風は -0.6m であった。結果、タイムで拾われ、準決勝への進出を決めた。

13:50 男子 2 部 100m 予選 4 組

4 組 6 レーンに藤田 (4 年) の出場。藤田は六大戦で東大記録を出し、東京選手権では 100m で優勝、200m で準優勝と、昇り調子で関東インカレを迎える。100m では上位入賞が期待され、一部昇格への鍵となる大事な種目である。主将としてもチームを引っ張る力強い走りが求められる。

皆の期待が一心に集まるなか、号砲が鳴る。スタートはやや出遅れたか。しかし、今季の藤田にはこのビハインドをものともしない強さがある。伸びのある動きから中盤にかけて加速していき、スタートでは最下位であったが、3 位、4 位ほどに上がる。後半に自信があると藤田自身が語るように、トップの選手を猛追。トップ 3 人がもつれるなか、ゴールラインを通過。着順では準決勝進出は確実であるが、タイム・順位の発表を待つ。藤田は 10"69(+0.7) で 2 着であった。組上位 3 人が準決勝進出であり、見事に藤田も予選通過となった。

藤田にとってこのタイムはセカンドベストとなるが、本人は当然余裕を見せていた。決勝進出、その先の表彰台へ、自信をつけている様子である。ただし、課題も見えた。スタート時のリアクションタイムでは、出場選手中最下位であり、トップスピードの速さ

も見せたが、同時にスタートの弱さも見せてしまった。決勝での上位を狙うためには、スタートの良さも重要な要素となる。準決勝に期待したい。

15:10 男子 2 部 1500m 予選 1 組

1 組目に渥美 (4 年) の出場。渥美は怪我で長期間走れなかったものの、4 月中頃からスピード練習が積めるようになり、調子を取り戻しつつあった。目標は 3'54.55 を出した上での決勝進出であった。天候は 5 月中旬にしては気温がやや高く、1500m を走るには申し分のないコンディションであった。また、優勝候補であった同じ 1 組にエントリーしていたラザラス・モタンヤ (桜美林大) の棄権により、渥美の決勝進出の期待が高まっていた。

スタート直後、渥美が先頭に飛び出して最初の 200m を引っ張ったが、その後佐久間 (亜細亜大) が集団を引っ張る展開となる。渥美は先頭後ろの 2 番手に付けて、決勝進出を狙える位置で最初の 1 周を通過する。このときのラップタイムは 62"8 であったが、急にペースが上がり、ついていくのは厳しいと判断して少しずつ集団の後ろに下がっていった。次の 400 のラップタイムも 62"2 とかなり速く、集団から離れてしまう。その後も懸命の走りで粘り、集団から脱落した選手を拾って少しでも順位を上げようとした。しかし、ラスト 200m で失速し、4'00"72 の 11 着でゴールした。

1 組目は、あとに続く 2,3 組目に比べてかなりペースが速く、3'53"28 の 6 着まで決勝に進出できたが、惜しくも決勝進出には届かなかった。渥美にとっては最後の関カレとなったが、ここ数年出場が無かった 1500m への出場、そして力走は多くの後輩部員の励みになった。

選手の言葉 長距離 4 年 渥美祐次郎

1500m 4 分 00 秒 72 1 組 11 着 予選落ち
大学 4 年目のトラックシーズンは、関東インカレの 1500 で得点することだけを意識して練

習しました。1月に膝の故障があってなかなか仕上がらず、春季オープンや六大戦を回避して関カレに合わせました。自分の組の申請タイムでは同じ程度の選手が固まっていて、決勝に進出することができるかどうかという状況でした。序盤は2番手に着いて思い通りの展開でしたが、ハイペースにもかかわらず集団はなかなか崩れなく、中盤で離されてしまいました。結果を見るとほとんどの選手が自己ベストを更新しており、自分の読みが甘かったことと、実力不足を感じました。部の目標である一部昇格にまったく貢献することができず、本当に情けないです。関カレでリベンジすることはもうできませんが、残された短い時間で納得のできる結果を残すために、もう一度練習を積みなおしておこうと思います。応援ありがとうございました。

16:35 男子2部 4×100mR 予選4組

4組4レーン泉(4年)-西村(3年)-稲葉(4年)-藤田(4年)の走順で出場。学部生チームは先日の六大戦では同じメンバーで全カレ標準突破、東大新記録樹立を達成したばかりで良い流れに乗っており、確実に予選を突破出来ると予想されたため、バトンの歩数も普段より少し縮め、確実なバトンパスに重点を置いて挑んだ。1走の泉がいつも通りのキレのあるスタートで飛び出し、周囲の選手たちとの差を付け2走の西村にバトンパス。西村は、各大学のエースが揃う2走で互角のレースをし、少し差を広げた。3走の稲葉も短距離チーフの貫録を見せ、伸びのある綺麗な走りですべてを更に広げ4走藤田に繋ぐ。アンカー藤田は前の駿河台大学の選手との差をぐいぐいと縮めるも、追いつく事は叶わず40"72の2位でゴール。しかし予選でバトンが詰まった場所もありながらも六大戦で叩き出したタイムと同程度のタイムを残し、明日の決勝への手応えと自信につながる

良いレースだった。

選手の言葉 応援係 千田

今回、私を含む応援担当9名で準備し、当日の応援を引っ張りました。出場が叶わず、悔しさや無力感を抱いている人たちでも素直に声を出せる活気のある応援、そして1mmでも選手の背中を押すような一体感のある応援を目指しました。

盛り上げるのはもちろん、事前に選手の目標を聞いて部員間で共有したり、試合の途中経過を連絡し合い応援席で共有したり、マイル決勝前にTの人文字を作ったりと、新しい試みも取り入れました。3日目のハンマー・やり・幅・マイルが被った時間帯は、人数配分してそれぞれに配置しました。私はやり投のピット前にいましたが、試技前に何度かこちらを見る奥村の少し笑ったような表情が印象的で、5投目パスしたときもこちらを見ているような気がしました。応援と選手が繋がっている、そう感じました。マイルが始まる時間ギリギリだったが、離れられず大きく「一本！」の声かけをしました。6投目、拍手を求める奥村を見て、応援で選手が活躍する場は作れるのだと実感しました。

男子の1部昇格はなりませんでしたが、今年会場に響いた東大の声援は、間違いなく来年こそという一体感を作り出したはずです。この関カレは一生忘れません。



東大の応援は 1 部校に負けない規模。選手と繋がっている。

—2 日目—

10:30 男子 2 部 110mH 準決勝 1 組, 2 組

110mH 準決勝には、杉森 (6 年) と宮原 (4 年) が出場する。レースは 2 組で 4 着取りである。この種目での東大の目標得点は 2 点であり、決勝進出が期待される。スタート前のグラウンドコンディションは良好。よく晴れて、ホームストレートには追い風が吹いている。

まず、1 組目 4 レーンから宮原の出走。スタートから少々もたついたように見え、3 台目では抜き足をハードルに引っ掛け大きくバランスを崩してしまった。一度崩れてしまったレースを立て直すのは難しい。その後は大きなミスなくハードルを越えていくものの、先頭との差は広がってゆく。結果 15"63 の 7 着でフィニッシュ。この時の風は +0.9m であった。予選での大幅な自己ベスト更新があっただけに不本意なレースとなってしまった。宮原には本命種目である翌日からの 400mH での活躍が期待される。

続いて 2 組目 3 レーンから杉森の出走。勢いの良いスタートを決めてスムーズにハードリングをこなし、5 台目までは他の選手に食らいついていく。しかし 6 台目以降で離されてしまい、粘り強い走りを見せるもののその差は広がってゆく。結果 15"14 の 6

着でフィニッシュ。この時の風は +1.8m であった。

東大からこの種目で決勝に進出できず残念ではあったが、出場した 2 人ともが予選を突破し準決勝へと駒を進めたことでチーム全体に良い流れをもたらしてくれた。2 人には更なる記録の向上を期待し、これからもチームを高めへと導いて欲しい。

10:30 男子 2 部 走高跳 決勝

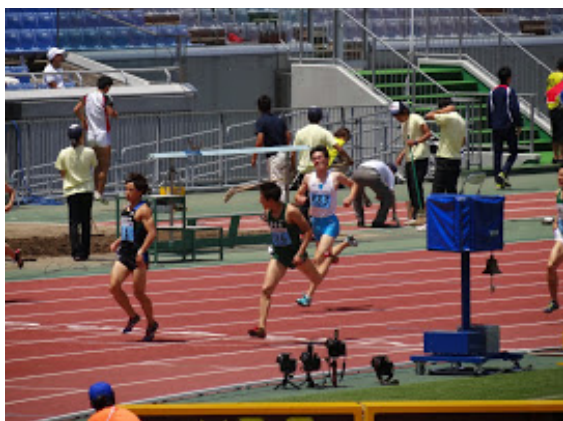
男子走高跳には福永 (3 年) の出場。天候は晴れ。気温は 28 で風はほぼなく、走高跳には絶好のコンディションであった。福永は春先から慢性的に腰に痛みを抱えており、最高とは言えないコンディションではあるが、申請記録ではトップの記録を持っており、好順位が期待される。

試合は 1m95 から始まった。福永はこの高さをパスする。今年の走高跳はかなりレベルが上がっていて 1m95 には半分以上の選手が成功していた。次の高さは 2m00。福永はこの高さを 2 回目で難く成功させる。2m00 ではかなりの選手が失敗したが、それでもまだ 14 人もの選手が残っている。高さはさらに上がり 2m03。2m00 の時ほど余裕はなく、なんとか 2 回目の跳躍で成功させた。次の高さは 2m06。周りの選手の申請記録をみてもこの高さを 1 回で跳べるかが表彰台に乗れるか乗れないかの境目になりそうだ。福永の 1 回目の跳躍は助走がうまくいかなかったのか、ミスジャンプになりほとんど体が浮いていない。2 回目の跳躍では体はバーを越えてはいたが、惜しくも腰を当ててしまう。3 回目の跳躍も 1 回目と同じような跳躍になってしまった。結果は 2m03。試技順の関係で 9 位だった。

今年は下馬評では優勝も狙える位置にいたため 9 位という結果は残念ではあったが、腰の痛みにも耐えながら 2m03 を跳ぶ姿は後続く出場者を勢いづけるものであった。来年の関東インカレでは今年の雪辱を晴らし、表彰台の一番上に立ってほしい。

11:15 男子 2 部 400m 準決勝 2 組

2組5レーンに小西(4年)の出場。昨日の予選に引き続く今日の準決勝。予選があった前日ほどではないが気温は高く、前日の疲れをうまく落とし、400mの距離をしっかりと走り切れるように体調を整えきれたかどうか今日も重要なキープポイントになるかと思われる。前日の準決勝を最高の形で終えているだけに決勝進出が叶うかどうか、期待が高まる。トラックの上の小西は非常にリラックスできており体調も整っている様子である。29レーンまでの8名でのレースとなる。序盤は非常に良いペースで先頭集団についていっていたがやはり準決勝はレベルが高く、後ろから追いついてくるのに反応してペースを乱してしまったか、あるいは前日からの疲れが十分にとれておらず思うようにペースを維持できなかったか、終始良い走りではあったものの途中で後続に抜かれていきゴール手前100mほどで驚異的な粘りを見せつけるも最後は8位でゴール。記録は49"19、決勝進出は叶わなかったものの最後まで決勝進出をあきらめずに粘り続けた、4年生としての意地を感じるレースであった。決して流れは悪くはなっていない。今日はしっかりと疲れをとって休み、翌日のマイルでの好走が望まれる。



最後を振り絞る小西

12:00 男子2部 100m 準決勝1組

1組5レーンに藤田(4年)の出場。前日の予選では

スタートはいまひとつであったが、後半の伸びを見せ、見事準決勝進出を果たした。準決勝では大東大、青山学院大など強豪が揃うなかでのレースとなる。得点獲得を期待されている藤田としては、何が何でも決勝に進出したいところであろう。

緊張に包まれるなか、スタート。スタートで一歩遅れをとったか。前半はその遅れが響き下位であるが、ここからの伸びはどうだろうか。中盤に入り藤田は勢いをつけトップスピードにもっていき、周りの選手も加速していく。トップの選手は抜け出したが、藤田を含め5人ほどがかたまって後半へ。観客席からの応援もいっそう増すなか、いよいよゴールラインへ。藤田は4番手、5番手あたりだ。フィニッシュ。駿河台大の選手とほぼ同着である。決勝に進出できたのか否か、藤田や観客席に緊張が走る。結果発表を今か今かと待つ。スクリーンに結果が表示される。藤田は4着、10"70(+1.2)のレースであった。5着の駿河台大の選手とはわずか0"005差という大接戦であった。このわずかな差で藤田は決勝進出を手にした。勝負強さが光ったレースだったと言えるだろう。

レース全体を見れば、やはり課題となるのはスタートか。決勝は実力が伯仲している以上、スタートの重要性はより一層増すだろう。この遅れを決勝では克服できるか。スタートが成功し、得意の後半の伸びがあれば、表彰台、さらには優勝も到達しうる域にある。藤田自身も表彰台の可能性は十分にあると語っていた。緊張・期待を速さに変えられるか。決勝は約4時間後。最高のレースを見せて欲しいものだ。

14:05 女子1部 10000mW 決勝

宮崎(4年)の出場。気温28度の蒸し暑さの中で14人が競う。最初で最後の関カレで良い結果を残せるか。申請タイムでは一番下だが、主将藤田の100m決勝進出の後で、女子唯一出場の宮崎に応援も気合が入る。

スタート直後宮崎は集団から離れ、日本女子体育

大学の選手と二人旅になる。1km の通過は 5'10 のハイペース。だが、ここを過ぎてついていた選手に離され、単独で前を追うことになる。2km 通過は 5'30 だが疲れが見え始める。3km 手前で先頭集団と周回遅れとなり、我慢のレースが続く。その後ペースは少しずつ落ち、何回も下を向きながらも最後は 58'43"16 の 14 位でフィニッシュした。観客からの温かい拍手ももらった。先頭は国土館大のワンツーフィニッシュ。

レース展開は苦しかったものの、関カレの大舞台で警告を 1 回も受けず最後まで歩き切った女子主将の姿が、女子部員の心に火をつけたことは間違いない。来年以降の女子パートの活躍の種はしっかりと蒔かれた。

選手の言葉 競歩 4 年 宮崎愛里香

4 年目にして最初で最後の関東インカレ出場となりました。競歩の男子部員が関東インカレや全日本インカレで戦うのを見てきたので、自分も関東インカレに出られたのを嬉しく思う一方、出場がやっとというレベルにしか達しなかったのは残念でもあります。

決して絶好調ではなかったものの、当日は心配していたほどには暑くもなく、また精神的にも、過度に緊張せず、良い緊張感と高揚感を持ってレースに臨みました。それでもやはり、スタート直後から周囲との実力差を痛感させられました。スタンドからの応援に支えられてなんとか大崩れせず歩き切ったというのがレース全体の印象です。

結果が残せなかったのは私の取り組みの甘さゆえでしょうが、関東インカレは今まで体験したことがないほど楽しい試合でした。私自身残りの競技生活の中で良い結果を出せるようさらに精進するとともに、後輩が来年以降あの舞台に立ち活躍できるよう支えていきたいと思えます。

16:25 男子 2 部 100m 決勝

3 レーンに藤田 (4 年) の出場。準決勝では僅差で決勝進出を決めた。東大は思うように得点できていない状況であり、上位入賞をしてチームを盛り上げる走りが期待される。持ち記録としては表彰台圏内も十分に狙える。チームからの大きな期待を受け、スタートラインに立つ。

スタジアム内が静寂に包まれるなか、号砲が鳴る。スタートでは前のレースに続いて出遅れた。しかし今回はすぐに持ち直し、選手は横一線に。大東大の選手が一人前に出るが、他の選手は完全に実力伯仲といったところか。中盤に入り藤田は持ち味の後半の強さを見せるが、決勝ということもあり、他大の選手も速い。一歩前へと火花を散らす大接戦となる。応援にも力が入る。皆身を乗り出し必死の応援だ。終盤になっても横一線の状況は変わらない。藤田、若干遅れをとったか、それでも粘りを見せる。ゴールを決め、フィニッシュ。2 位から 7 位まではほぼ差がなく、順位はわからない。藤田もこの中にいるが、果たして結果は。結果がスクリーンに表示される。藤田は 10"78(+1.0) で 6 位という結果であった。

藤田自身、この結果には満足していない様子である。ベストの走りができれば 2 位も十分にあり得ただけに悔やまれるレースとなった。今回のレースの 2 位は 10"75 であり、6 人が 0"05 内にいる混戦となったが、この中で抜け出せなかったことは藤田も悔しいようだ。しかし、藤田が獲得した 3 点は、東大にはずみをつけるものとなるだろう。今後の藤田のチームの中心としての活躍が期待される。

選手の言葉 短距離 4 年 藤田旭洋

自分は男子対校 100m・200m・4 × 100mR の 4 走に出場いたしました。六大戦で大幅にベストを更新し、四月中旬の東京選手権では 100m・200m とともに調子がよく、関カレまでの心身の仕上がり方は申し分無かったと思います。

個人種目に関して、100m も 200m もシーズ

ンベストを見れば十分に優勝が狙える立場ではあったのに、いざ蓋を開けてみると100mが6位・200mは準決勝敗退という結果でした。両種目とも自分に期待されていた得点を大幅に下回っています。この原因は練習不足、また、大一番のレースを前にして走り方やレース展開に関して自信を持てなかったことだと感じています。4×100mRに関しては優勝まで見えていたものの自分がバトンを受け取る際にミスをしてしまったことで優勝が遠のいてしまったのが本当に申し訳なく、そして不甲斐なく思います。関カレでは単にタイムだけでなく、精神面でも体力面でも強さがなければ戦えないということを感じました。連日応援してくれていた部員、そしてOB・OGのみなさまには心から感謝しております。まだ試合は多く、特に全日本インカレというリベンジの場に向かって今後とも精進してまいりますので、これからも変わらぬご声援をよろしくお願いします

16:30 男子2部 三段跳 決勝

午後4時、関東学生陸上競技対校選手権大会男子2部三段跳の競技開始の旗があげられた。天候には非常に恵まれ、風は程よい追い風、気温は高すぎることはなく好記録が期待された。出場選手は吉田侑弥(3年)の一名。資格記録では8位につける実力の持ち主である。吉田はこの関東インカレに非常に重きを置いていて、心身ともに調整は完全になされているようであった。二度目の出場ということもあり、適度な緊張感を漂わせながらも、ただならぬ雰囲気はほとばしっていた。

吉田の最初の試技が始まる。スピードに乗ったすばらしい助走から特徴である大きなホップ、そして力強いステップ、ジャンプ。記録は14m38(+0.3)。ジャンプの際、体が前傾しすぎてしまい思うように

記録は伸びなかった模様。一回目の試技終了時点で5位につけた。しかしファールで一本目を終えた選手が6人もいるため、決勝進出のためには記録をのばす必要がありそうだ。そして吉田の2回目の試技。同様にジャンプで若干前傾しながらも修正できたよう記録を14m65(+0.8)にのばす。二回目の試技終了時点で3位につけ、決勝進出が確信された。3回目の試技はファールであったが吉田の順位は変わらず決勝進出を果たした。4回目の試技。今までの前傾気味のジャンプが完全に修正され、さらに記録を伸ばす。14m77(+1.5)。2位となる。ここからの吉田の跳躍は更に期待できそうである。5回目の試技。相も変わらず大きなホップ、スムーズなステップ、重心を完全にとらえたジャンプ。ここ一番の跳躍を見せた。記録は14m94(+1.7)。彼自身の自己ベストであるこの記録は現在1位の記録である。6回目の試技もすばらしい跳躍をみせ14m91(+0.7)。吉田は14m94で競技を終えた。この記録は誰も抜くことはかなわず、見事吉田の優勝で競技終了の旗があげられた。

吉田は非常に安定して好記録をあげられる選手であり、今後の対抗戦での大量得点、および天皇賜杯日本学生陸上競技対抗選手大会の標準記録突破、そして活躍が期待される。

選手の言葉 跳躍3年 吉田侑也

自分は昨年度のインカレで結果を残せなかった悔しさを胸に一年間練習を積んできました。そのため、成果を最も良い形で示せたことはとても嬉しく思います。今年度はあまり良い形でシーズンインすることができず、競技が始まるまで、もとい始まって不安を拭いきれませんでした。それでもなんとか競技中に立て直し、最終盤での逆転という自分の勝ち筋に結びつけることができたというのは、今後の対校戦にとってもプラスになる経験だったと考えています。部としては非常に悔しい結果になってしまいました。

しかし、得点源の大多数は来年も部に残るので、来年度の一部昇格は今年以上に鮮明に見えるはずだと思います。自分も連覇をかけて 1 年間練習を積み、少しでも得点を稼げればと思っています。応援して下さった皆様、本当にありがとうございました。今後ともよろしく願います。



吉田は優勝を果たした (真ん中)

18:40 男子 2 部 4×100mR 決勝

8 レーンに予選と同じく泉(4年)-西村(3年)-稲葉(4年)-藤田(4年)の走順で出場。藤田はここまでで個人種目含め 100m を 4 本走っており疲労が心配されたが、表彰台、更には優勝が期待されるレースだった。しかしどの大学も予選での記録は拮抗しており、当日の各選手の走りとはバトン次第で簡単に順位が入れ替わる混戦になると予想された。

1 走の泉は関カレに向けて調子を整えてきた成果を発揮し素晴らしい集中力を見せ、出場チーム中一番早いリアクションタイムでスタートを切った。またその後も他大学の選手との差を広げ、最高の走りで 2 走に繋いだ。2 走の西村は、跳躍の選手ながら今期短距離パートの選手に勝る素晴らしい走りを見せている実力通りの走りでじわじわと差を広げた。しかしこの時点でほぼ斜めに一直線の状態各校差はそれ

程無くレベルの高さを感じるレース だった。2-3 走で少しバトンが詰まったが、3 走稲葉も表彰台への気迫が伺える走りで他大と競り合いアンカー勝負になるかと思われたが、4 走藤田 が少し出遅れ更にバトンが一度で渡らず時間をロスしてしまう。その間に差を付けられ、藤田が怒涛の追い上げで二人ほど抜かすも、結果は 40"70 で 5 位。所々バトンミスもあり、実力を出し切れず表彰台を逃したことに選手 4 人ともが悔しさを滲ませたが、今回見つかった課題を今後にかかしてほしい。秋には全日本インカレの舞台が待っている。現メンバーのバトンパスの成熟、並びにメンバーを脅かすような下からの突き上げが 4 継チームの更なる飛躍に欠かせないだろう。



3 走稲葉から 4 走藤田にバトンが渡る

-3日目-

10:25 男子2部 10000mW 決勝

宇野(3年)・渡邊(3年)・棟重(2年)の出場。2回目の出場となる宇野・渡邊に加え、初出場の棟重も力をつけてきている。昨年度の9点を超える大量得点でチームに勢いをつけたいところである。小雨がちらつく中、1部28名・2部16名・3部1名の総勢45名が一斉にスタートした。

1部の4位集団に紛れて斉藤(平成国大)・遠藤(東農大)の2名がトップを争う。その150mほど後方で渡邊が7位を独歩し、宇野と棟重は11位集団に付く形になった。渡邊は2000mで6位の持平(都留文大)を抜かして平田(立大)・福田(平成国大)に追いつき、3000mでこれを突き放して4位になる。一方の宇野・棟重は集団のまま4'20 4'30/kmで3000mまでを歩くが、2000mで宇野が、また3000mで棟重が、注意・警告を取られてしまう。棟重は4'50/kmまでペースを落とすが、うまくフォームを立て直すことができず5200mで惜しくも失格に。宇野は集団にとどまり、4'30/km前後で刻んだもののさらに警告を取られ、5200mで無念の失格。渡邊は最後まで1人で歩き続け、4000mでは3位の皿井(横国大)との距離を50mまで縮めるも手が届かない。雨があがるとともに気温は上昇し、7400mでは給水とともにサングラスを掛け直す場面もあった。それでも渡邊は、周回遅れの選手を拾いながら警告0の安定した歩きを見せ、4位(43'18"33)でゴール。

計5点の獲得という厳しい結果となったが、トラックシーズンは始まったばかりである。今後の競歩パートの活躍の場をさらに広げることが期待される。

10:30 男子2部 円盤投 決勝

男子2部、3日目の最初のフィールド種目は男子円盤投げ。ここには宮野(6年)が出場。宮野は1日目に行われた男子砲丸投げにて自己ベストを更新し7



追い込みをかける渡邊

位入賞しており、さらに今年4月末に行われた競技会にて円盤投げ2部A標準を切る36m56という記録を残し現在上がり調子である。3日目は朝から小雨が降ったり止んだりして気温はそこまで低くはなかったものの、サークルが濡れており番狂わせが起こることが十分予想された。学部生としては最後の関東インカレとなる宮野。見事2種目入賞を果たすことが出来るか。

宮野の1投目は左足の着く位置がずれたため右に抜けてファールとなったが円盤は33.4m付近に落ち、これからの試技に期待が高まる。しかしながら2投目はファールにはならなかったものの力が伝わらず記録は29m95に留まる。3投目によやく普段の感覚を取り戻して大きな投擲を見せるが、記録は34m14でトップ8には残ることが出来ずに競技終了となった。14位であった。なお、3投目終了時点で8番手の記録は35m60であった。自己ベストを出せば入賞が可能だった試合であったので悔いが残る試合になった。

宮野は今年で引退であるが投擲パートのエースとして残り少ない対校戦ではその力を十分に発揮してもらいたい。

11:35 男子2部 800m 予選3組,5組

軽部(3年)が3組5レーンから出場。天気は曇り

で、800m には最も適していると思われるコンディション。軽部は組の中では持ちタイムはトップで、予選は楽に着順で通過したいところ。最近の調子もいい。軽部はスタート直後から先頭に出る。200m 通過は 26 秒。しかしここから急にスローペースとなり、400m 通過は 58 秒。後ろについていた者たちは当然ながら焦ってここからペースを上げていく。だが時すでに遅し。軽部はそれに全く惑うことなく、先頭を維持し続ける。最後のホームストレートでは 2 位以下を大きく突き放し、何度も振り返る余裕をもって、1'55"64 でゴール。結局軽部の想定通りの圧巻の走りとなった。

加藤 (3 年) は 5 組 4 レーンから出場。持ちタイムとしては下位だが、昨日の六大戦で久々となる自己ベストをたたき出し、ようやく長く続いた不調のトンネルを抜け出したところで、乗っている。同じ組の選手は強者ぞろいで着順で予選を抜けるのは難しいが、自己ベスト近くを出せばプラスでの通過は十分可能性がある。

スタート直後は 4 番目につき、200m 通過は 26 秒。ここで後ろから上げてきた選手に前を譲り、やや後ろにつく。それでもペースは落ちないまま、400m を 56 秒で通過。ここから加藤がギアを変え、二人を抜いて前へ。600m 通過後もスピードを落とさず 4 着、1'54"09 の自己ベストでゴール。軽部に続き、こちらも狙い通りの完璧なレース展開だった。加藤はプラスの 2 番目のタイムで準決勝へ駒を進めた。

13:50 男子 2 部 400mH 予選 3 組,4 組
3 組 2 レーンに宮原 (4 年)、第 4 組 5 レーンに兄井 (2 年) の出場。天候は曇り、風も強くなく、よいコンディションである。準決勝進出の条件は 4 組 3 着 + 4 である。申請記録はそれぞれ 53"80、54"83。宮原は決勝進出を前提としての余裕を感じさせる走り、兄井は準決勝進出へ向けての精一杯の走りを期待したい。

まず 3 組、宮原のスタート。宮原はいつもと同じ

ようにスムーズに走り出す。安定したペースで一台、二台と越えていく。中央のレーンの二人に先を行かれているように見えるが、宮原の走りは焦りで崩れることはない。第 4 コーナーを曲がったあたりで周りの選手が失速していく中、宮原のスピードは落ちず最後のハードルを越えるころには 1 位に。最後チラリと後ろを確認しながら余裕の 1 着でフィニッシュ。記録は 53"20 で大幅にベストを更新した。このタイムならば決勝進出も間違いなだろう。

そして 4 組、兄井のスタート。スムーズにも見えた出だしであったが、周りの選手が速い、兄井がおいていかれているが自分のペースはしっかりわかっている。安定した走り次第々とハードルを越えていくと第 4 コーナーを終えると前にいる選手たちとそこまでの差はない。一人を抜かず、しかし 10 台目でバランスを崩す。しかし懸命に走る、猛追するも追いつけず 5 着でフィニッシュ。記録は 54"14 でこちらも大幅にベストを更新した。このタイムはプラスの 5 番目、準決勝には惜しくも 0"03 の僅差で進出できなかった。

予選落ちしてしまったものの兄井はここまでぐんぐんと記録を伸ばしており、来年度の関カレでの活躍が望まれる。そして宮原の準決勝、決勝での走りに大きな期待がかかる。一部昇格のため、踏ん張ってもらいたい。

14:55 男子 2 部 200m 予選 1 組,2 組

各組 4 着とプラスの 1 名が準決勝に進出する男子 200m 予選。1 組 6 レーンに藤田 (4) の出場。前日の 100m では見事 6 位に入賞したものの、準決勝から記録を伸ばすことは叶わなかった。その悔しさをここにぶつけ、一部昇格に弾みを付けて欲しいところ。スタートの反応は他選手よりもわずかに遅れた。内側を走る大東大が飛び出し、2 位以下が取り残された形。しかしコーナーを出たあたりから、藤田は持ち前の力強い加速で他の選手をどんどん引き離していき、結果 21"81 の 2 着でフィニッシュ。余裕をもつ

て予選を通過した。このときの風は +1.5m だった。

2組9レーンに稲葉(4)の出場。稲葉は前日の4×100mRに藤田とともに出場し、バトンミスがありながらも東大記録を更新する走りを見せた。この予選は問題なく通過して欲しい。スタートは良い反応を見せるが、他選手もなかなかの走り。コーナーを抜けた時点では他大3人と並ぶ。130m付近で群馬大の選手が抜け出るが、稲葉を含む3人はほぼ並んだ状態のまま。しかし最後の50mから稲葉が他の2人との差を広げ始め、21"82の2着でフィニッシュ。自己ベストを更新し、チームを勢いづける走りであった。このときの風は +1.9m だった。

15:30 男子2部 ハンマー投げ 決勝

鍵本(3年)は申請記録こそ19人中16番目であったが、練習で投げたことのある41m96を算入したならば全体で9番目であり、入賞の可能性は考えられた。鍵本は全出場者で唯一、二回転の投擲者だ。二部の相手など、二回転で十分だ。応援団がサークルの目の前で待ち受けるなか、鍵本は、東大カラーの青いスパッツと、それに似つかわしくない真っ赤なアンダーウェア、そしてその上に真っ白なユニフォームを身にまとい、日産スタジアム付帯投擲場に現れた。鍵本が本気でハンマーを投げる時に着用されている、赤・白・青の「トリコロール」スタイルだ。練習試技では、時間をゆっくり使って投擲の開始位置、サークルの感触などを確かめていた。大舞台でのプレッシャーのなか、冷静に集中力を高めていた。合間にはしきりにターンの確認をしていた。ハンマーを後ろに投げ出し、素早く追い越して腰を入れる一連の動きである。その動きは、練習のたびに良くなっていった。一投目、鍵本は37m73のPBをマーク、しかし軸がぶれており、改善の余地はまだあった。二投目は、38m52のPB。軸が安定し、うまく腰の捻りを使うことができ、スムーズに加速できた。あとはローポイントを身体の右側に維持し、加速区間を増やせば40mを伺うかと言ったところ。

三投目、ファール。力みすぎて入りで倒れてしまい、フィニッシュ後にサークルから出てしまった。

16:00 男子2部 やり投 決勝

やり投げには去年に続き奥村俊樹(3年)が2回目の出場をした。申請記録では決勝に何とか残れそうという立ち位置であったため、チーム目標は決勝に残って2点を取ることを、そして奥村本人の目標は去年緊張して良い結果を残せなかった雪辱を果たし、ベスト更新して上位入賞することを掲げた。予選では、2投目終了時の時点でやや動きが固い奥村は1投目の58m50で、周りの選手が緊張しているのか軒並み不調で50m中盤しか出ておらず、6位で決勝進出かという所であった。しかし3投目で奥村が覚醒、2投目までと違いリラックスした動きで投げられたやりは60mのラインを超えベスト更新の61m90で暫定1位、決勝進出を確実にするとともに上位入賞期待できるものとした。決勝では、申請記録で60m中盤の選手2人が記録を伸ばし3位に落ち、奥村も記録を伸ばそうとしたもののファールで伸びず、3位入賞で6点という結果となった。今回はチーム目標を大幅に上回ると共に、奥村も自身の目標を果たし大きく競技力を向上することができた。今後もこの流れに乗って七大戦、そして来年の関東インカレに向けて記録を伸ばしていけるよう応援していきたい。

選手の言葉 投擲3年 奥村俊樹

こんにちは。この度男子やり投げに出場しました、投擲3年の奥村俊樹です。記録は61m90の自己ベストで3位に入賞することが出来ました。

僕は砲丸投げにも出場していましたが、腰の怪我の影響であまり満足に調整を出来ず予選落ちでした。申請記録的には得点すべき位置にしながら得点出来なくて非常に悔しく思いました。試合後、中学時代の恩師に声をかけられ、不甲斐ないところを見せてしまったとさらに落ち込みました。やり投げは砲丸投げより得点しづら

い状況にいましたが、砲丸投げの分まで得点しようと思ひ込みました。翌日、3 年の吉田が三段跳びで優勝したということを知り、さらにやる気が出ました。そして当日、一緒に出場した M2 の大野さんや慶応の平井さんからの的確なアドバイスを頂けたことが、周りの選手が実力を出し切れない中での自己ベスト更新につながったと思います。

来年の 2 部には 70m 以上投げる選手がいるので、その選手に勝てるように、七大戦、京大戦と着実に伸ばし、少しでもはやく 70m の壁を壊したいと思います。これまで応援、サポートして下さった皆様、本当にありがとうございます。そしてこれからもどうぞよろしくお願い致します。



笑顔の奥村 (右)

17:25 男子 2 部 4×400mR 予選 4 組

4 組 5 レーンに兄井 (2 年)-小西 (4 年)-森本 (3 年)-河野 (2 年) の走順で出場。決勝進出のためには組 1 着もしくはその他で全体の 4 番以内に入る必要があるが、同じ組には申請記録が 3'12"62 で東京大学を上回る東京経済大学を始め、青山学院大学などがあり、予選から激しい勝負となると予想された。

1 走兄井のスタート。緊張からか、走りが若干硬

いように感じられる。若干他から遅れてしまったが、ホームストレートでの懸命な走りで 2 走小西へとつなく。他選手を追いかける形となったが小西は落ち着いていた。バックストレート、そこからのカーブで一人また一人と他校の選手を抜いていき、3 走森本へ 3 番でバトンを渡した。森本は 2 番の選手の後ろについていき、1 番の青山学院の選手が減速して落ちてきたところに食らいついていった。そして河野へのバトンパス。バトンは絶妙にわたり、青山学院をうまくかわし、2 番へと躍り出た。しかし、バックストレートで青山学院に抜き返されてしまい、そのままゴール。結果は 3'14"57 の 3 着であった。

組 1 着となることはできなかったが、プラス上げ 4 校以内に入ったので、無事決勝進出を果たした。決勝では表彰台、そして好記録を期待したい。

18:45 男子 2 部 5000m 決勝

2 レーンに近藤 (1 年) の出場。すっかり日が暮れた時間帯のスタートで好記録が期待される試合となった。近藤は 1 年生ながら受験のプランクを感じさせず 3、4 月の記録会では安定した走りで 14 分台を出しており、自己ベスト更新、8 位入賞が期待された。

レースは 2 部 3 部 48 人の出走。序盤、近藤は青山学院大学の選手が引っ張る大集団の後方について前を窺う。2000m を過ぎると集団の先頭がペースアップし、近藤もそれに合わせて後方から着実に順位を上げていく。3000m を青山学院大学の選手が引っ張る 12 人の先頭集団は 8'30 で通過、近藤は第 3 集団に位置し 8'42 で通過した。近藤は積極的に集団の前方に出るが、3000m 以降なかなかペースを上げられず前の集団との差を縮められないまま 14'40"56 の 29 位でゴール。レースは中央学院大学の潰滝がラストスパートを決めて 13'53"93 で優勝した。

8 位の選手が 14'07"66 であり入賞ラインの選手とは差をつけられてしまったが、箱根駅伝などで活躍する選手も多数参加する大きなレースを 1 年生で走ったことは大きな経験になるだろう。この経験を活か

して来年以降関東インカレで点数を取れる選手になることを期待するとともに、関東インカレ出場選手の少ない長距離パートに良い刺激をもたらしていただきたいと思います

選手の言葉 長距離1年 近藤秀一

5000mに出場させていただいた近藤秀一です。結果は14'40"56で29位でした。

1週間前のポイント練習がうまくいったので、ベストを狙える力はあると思っていました。格上相手に最初からついて行って撃沈するのは目に見えていたので、前半は集団の後ろにつき、3000以降ペースアップして拾っていくことにしました。こうすれば自分よりも力が上の相手にも、体力の消耗が少ない分、勝てるのではないかと思いました。

実際のレースは集団後方で3000を8'43くらいで通過し、そこまでは悪くありませんでしたが湿度が高いためか発汗量が多く、ペースアップできずに終わってしまいました。常に後ろにいたので見せ場も全くないレースとなってしまいました。

敗戦の原因は圧倒的な実力不足です。レースに出てみて入賞には少なくとも13分台、もしくはそれを出す力がないと厳しいと実感しました。関カレが終わって一区切りなので、夏の走り込みに向けてまずは基礎からやり直します。そして秋の予選会に向けて走り込むのみです。予選会では60分台で走って、個人では学生連合入りかつ箱根駅伝出走を目標に、チームとしては予選会の東大記録の更新に貢献できるように頑張ります。

来年の関カレに向けてですが、距離を伸ばして10000mやハーフマラソンで戦うことも視野に入れたいと思います。練習を積んで来年以降関カレ一部昇格に貢献できるような選手になれるよう頑張ります。



1年生の近藤

—4日目—

9:30 男子2部 棒高跳 決勝

男子棒高跳には、松下(3年)の出場。天候は晴天。乾いた暖かい空気で絶好のコンディション。松下は、冬季練で走力を上げた。シーズンイン後一時期不調が続いたが、克服して一回り大きな成長を見せた。5月初めの記録会では自己ベストを5m10から5m40に伸ばし、標準切り。いま波に乗っている。棒高跳は最終日。2部は13名の出場。皆が注目する中、競技開始。

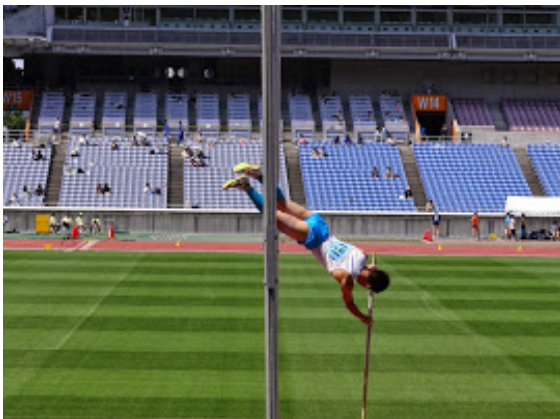
開始の高さは4m20。松下の1回目の試技。緊張もあったが、踏み切りがうまくいわずに、クリアランスに入らず、バーを落としてしまう。しかし、3部に出場した院生の上野が成功していい流れを作り、松下も2回目の跳躍で成功。余裕のある跳躍で、次の跳躍への期待をのぞかせる。次は4m30の挑戦。3本とも惜しい跳躍をみせたが、わずかに届かず。4m30で試技を終了した。

松下の結果は、2部は記録なしが5人出たため、試技数で6位タイとなり、2.5点を獲得した。いい意味で周りの期待を裏切る急成長を見せ、標準切りからの6位入賞。未だ発展途上で限界を見せない松下の跳躍は、さらなる高みを越えていく期待を我々に抱かせてくれる。上野に代わる東大の棒高跳の顔として、今後の活躍を大いに期待したい。

選手の言葉 跳躍 3 年 松下周平

今回は GW に標準を切ったこともあり勢い充分で日産に乗りこみました。僕自身初めてとってよい大舞台、練習跳躍はいい形を作ることができたものの、4m20 の一本目は正直訳が分からないほど緊張していました。しかし、ここを跳べないとこれから先どんな試合でも跳べなくなるぞと、この緊張は自分でなんとかせねばと、気持ちを持ち直しました。そして結果は二本目で跳んだ 4m20。他の選手の NM が出たおかげでなんとか点数は取りましたが、満足できる結果では到底ありません。

これからも 1 人ポールパートに入ってくれた新入生と共に、ポールパートから部を盛り上げて行くつもりで精進しますのでご期待ご声援よろしくお願いいたします。また、応援サポートありがとうございました。大きな力になりました。



跳ぶ松下

10:35 男子 2 部 400mH 準決勝 1 組

1 組 5 レーンに宮原 (4 年) の出場。天候は晴れ、気温もあまり高くなく走りやすい気候だ。決勝進出の条件は 2 組 4 着である。予選通過記録は 53" 20。こ

の記録であれば決勝はかたいたろうというタイムである。決勝に向けて弾みのつくレースをしてもらいたい。

スタート。いつもどおりの順調なスタートをきった。いつもにましてピッチが速いように見える。しかし準決勝、周りの選手も早い。第 3 コーナーを回ったところでは順位は真ん中ぐらいだろうか。しかし宮原は本当に最後まで落ちない。9 台目を越えたあたりからぐんぐんと周りの選手を追い抜いていく。最後にはやはり 1 位に躍り出て、後方を確認しながら悠々とフィニッシュ。記録はなんと 52" 22、前日のベストを 1 秒近くも更新した。

記録を 1.5 秒以上も更新して決勝に臨む。彼は本番に強い。決勝では、宮原ならきっと、といった思いがやまない。大きな期待がかかる。

10:05 男子 2 部 800m 準決勝 1 組, 2 組

軽部 (3 年) が 1 組 5 レーンから、加藤 (3 年) が 2 組 9 レーンからの出場。当日は予選の日とは打って変わって晴れ。少し汗ばむほど暑かったかもしれないが良い天候条件の中レースは行われた。予選では、軽部は終始レース展開を制し 1 着、加藤は速いレース展開についていき自己ベストでフィニッシュするなど両選手ともに活躍が見られたため、決勝進出が期待でき応援にも力が入った。

準決勝 1 組の軽部は格上の選手がいる中で終始トップに立ちレースを展開、ラスト 100m においても後続を振り返るという余裕を見せながら 1 着 1' 52 51 でフィニッシュし準決勝トップ通過。2 組の加藤は決勝進出を狙い、スタートから先頭についてレースを展開し積極的な走りを見せたが、500m 通過後から失速し 8 着 1' 59 21 で惜しくも準決勝通過はならなかった。

両選手ともまだ 3 年生であり、来年また出場の機会があるため来年のこの舞台での活躍が期待される。また残る対校戦においても今大会のレースの経験を活かして上位入賞を狙ってほしい。

11:50 男子2部 200m 準決勝1組,2組

1組7レーンに藤田(4)の出場。予選の記録では全体で6位であり、決勝進出への期待がかかる。スタートでは一歩目から力強い加速で、他選手よりも前に出る。しかし曲走路半ば以降徐々に追いつかれはじめ、直線に出たころには6人が先行する展開になってしまう。藤田は先行していた明学大の選手にラスト10m付近で追いつく執念の走りを見せるも、結果は21"70の6着。残念ながら決勝進出はならなかった。向かい風0.3mの中でのレースだった。

2組5レーンに稲葉(4)の出場。予選の記録は藤田に続き7位であり、得点獲得に向けて決勝進出が望まれる。1つ内側のレーンに100mで優勝した大東大の梨本がいるが、気圧されずいつもの走りを見せて欲しい。スタートはわずかに周囲よりも遅れるも、曲走路の終わりごろには2位争いに加わった。このまま粘って決勝進出なるかと思われたが、130m付近から失速し、順位を徐々に落としていく。決勝進出ラインである4着で踏みとどまって欲しかったが、150mを過ぎたあたりで2人に抜かれ、結果21"78の6着でゴール。予選からさらに自己ベストを更新したものの、こちらも決勝に進出することは出来なかった。このときの風は+0.3mだった。

残念ながらこの種目で東大が得点することはできず、藤田と稲葉の無念さは筆舌に尽くし難いものだったと思われる。しかし、逆にこれだけの力のある2人でも決勝に進めないということで、関東インカレのレベルの高さを改めて思い知らされた。来年度一部昇格に向けて、3年生以下がさらに力を付けなければならぬと痛感させられたレースだった。

13:10 男子2部 400mH 決勝

5レーンに宮原(4年)の出場。天候は晴れ、気温も高くなり少し走るには厳しい気候だ。準決勝通過記録は52"22。全体1位の記録で通過した。このままの勢いで2部400mHを制覇してもらいたい。

決勝がスタート。初めはほぼ同じペースで全員が



稲葉が激走する

スタートした。しかし決勝ということもあり他の選手が速く、バックストレートでは後半で伸びる宮原にはやはり少し厳しい展開である。しかし自分のペースを乱すことなく第4コーナーを回ったところでは優勝争いに絡んでくる。10台目あたりでついに2位になるが、外側の選手の猛追を振り切れぬ。最後まで懸命に走るも3着でフィニッシュ。記録は52"53、最後までベストの更新が続くということではなかったが、見事に東大に6点をもたらした。

関東インカレという大きな舞台で、そして1部昇格という目標のなか、素晴らしい走りを見せ続けた。これからの対校戦にも期待がかかる選手だ。短距離のエースの走りはこれからも部を引っ張っていくだろう。

選手の言葉 短距離4年 宮原弘季

男子110mH.400mHに出場しました短距離4年の宮原です。110mHが準決勝落ち、400mHが3位という結果でした。応援してくださった皆様、どうもありがとうございました。

個人の感想だけ述べます。110mHに関しては完全に練習不足でした。理想的なレース展開や細かい動きのイメージは完成していたものの、それを体現することが出来ませんでした。具体的にはスタートから最初の3.4台目までの動き。練習あるのみです。

400mH に関しては正直私自身も驚くような良い結果となりました。準決勝では無理も無駄も少ない、今の現状で私が理想としているレースを展開することができ、最後少し流しても 52.22 秒という自己ベストで走ることができました。これは陸上に関する正しい知識を身につけたことで、正しいケア、正しい練習、正しい努力を継続して行くことができるようになったからだと思います。

今後は 110mH は最低週 1 回の練習で感覚を掴み、400mH で全カレ B 標準の 51.60 秒を切ることを目標としつつ、後輩に知識や経験を伝えていくことに注力しようと思います。これからも応援よろしくをお願いします。



3 位の宮原 (右)

13:35 男子 2 部 800m 決勝

軽部 (3 年) が決勝に出場。予選、準決勝と、ほかの選手に一度も前を譲ることなく余裕をもって通過してきた軽部。決勝でも勢いそのままに、目標の 2 位を何としてもつかみたいところである。

スタート後 200m で軽部は前に出る。200m 通過は 26 秒。ここから東京農業大学の選手と並んでレースを引っ張る。400m 通過は 56 秒。2 週目に入ったあたりで単独で前に出る。600m 地点まではその位

置を維持し続けるが、平成国際大学と亜細亜大学の選手が前に出てくる。最後の 100m、亜細亜大の選手がやや前に出て独走態勢。あとは軽部と平国による 2 位争いのデッドヒート。平国の選手のやや後ろの位置だった軽部だが、残り数メートルでわずかに平国の選手を抜き、最後はトルソーで競り勝って 2 位をつかんだ。

軽部の勝負強さが前面に出た素晴らしい試合となった。東大のエースの一人として、今後の対校戦の活躍に期待したい。

選手の言葉 中距離 3 年 軽部智

4 月末から好調を維持し、最高の状態で臨むことができました。関カレが一番好きで一番懸けている対校戦であるため、当日は酷く緊張しました。しかし、チームの雰囲気がとても良く、サポートに助けられ、応援にも背中を押され、緊張を力に変えることができました。高校総体王者に敗れて優勝は出来ませんでした。最高の走りを出来たと思うので幸せです。一部昇格が達成できなかったことは残念です。それでも最高に楽しい 4 日間でした。来年はチームも僕も優勝出来たらと思います。

大きな目標であった関東インカレが終わりました。次の目標に向けて歩を進めます。東大記録を大幅に更新して全日本インカレで勝負が出来る選手になりたいと思っています。応援ありがとうございました。まだまだよろしくをお願いします

15:30 男子 2 部 4×400mR 決勝

予選とはメンバーが変わり、2 レーンに小西 (4 年)-稲葉 (4 年)-森本 (3 年)-兄井 (2 年) の出場。各校ともすでに行われた種目で疲労がたまる中、どれだけ良い走りをできるかが勝負である。関東インカレ 2 部



笑顔の軽部

最終種目だけあり、部員の応援にも熱が入る。部員の大歓声の中、選手たちがトラックに入場する。

スタート。1走の小西は安定した走りを見せ、粘りを見せる。好位置でバトンを2走の稲葉に渡す。稲葉はホームストレートに入る直前に一人に先を越されてしまう。しかしそれにしっかりと食いついていき、森本にバトンを託す。バトンを渡した瞬間に後続に前をいかれてしまう。また、バックストレートでも後ろからじわじわと後続が迫ってきて森本は順位を落としてしまう。バトンが最終走者の兄井に託される。兄井はバックストレートの終わりで後続に抜かされたように思われたが、ホームストレートに入ったところで再び抜き返し順位をキープし、そのままゴール。結果は3'14"63の6位であった。

表彰台を狙っていたため6位という結果は悔しいものではあるが、これは疲労がたまっただ中でも高いパフォーマンスを発揮できた他校選手との実力差によることは言うまでもない。今後の対校戦での好記録、そして4継に続く全日本インカレの標準記録の突破を期待したい。

選手の言葉 短距離4年 小西慶治

決勝進出すれば3年ぶりです。リレーはチームの力をそのまま反映する大事な種目でもありました。

結果は予選8番目のタイムで通過、決勝は2

つ順位を上げ6位入賞したわけですが、誰も満足していません。一つは着順で決勝に進めなかったこと、もう一つは表彰台争いができなかったこと。歴代では4位に相当するタイムなのですが、走った4人の個々の力からすると至って平凡な結果と言えるでしょう。今年は個人の400mへは1人しかエントリーできませんでしたが、50秒を切るメンバーが4人以上揃っているのは久々ではないでしょうか。2年、3年も多く来年以降にも期待が持てるチームです。マイルで決勝に行くのは当たり前、すでにそういう次元です。

西のインカレで京大は全カレ標準を突破したと聞きます。我々も負けてられませんね。

3. 試合結果

男子 2 部 100m 決勝 (+1.0)

1	梨本 真輝 (4)	大東大	10"52
2	石川 綜師 (2)	上武大	10"75
3	仁上 祐一朗 (2)	流経大	10"75
4	森 雅治 (3)	大東大	10"76
5	白石 黄良々 (1)	大東大	10"77
6	藤田 旭洋(4)	東大	10"78
7	小林 一成 (2)	駿河台大	10"80
8	岸 一輝 (4)	青学大	10"83

男子 2 部 100m 準決勝

1 組 (+1.2)
4 藤田旭洋 東大 10"70 q

男子 2 部 100m 予選

4 組 (+0.7)
2 藤田旭洋 東大 10"69 Q

男子 2 部 200m 決勝 (+1.5)

1	梨本 真輝 (4)	大東大	21"05
2	糟谷 翔 (3)	流経大	21"41
3	森 雅治 (3)	大東大	21"44
4	須貝 陽太郎 (2)	大東大	21"54
5	佐藤 隆世 (4)	流経大	21"61
6	澤田 悠貴 (3)	群大	21"64
7	前原 宙哉 (2)	作新学大	21"65
8	小林 一成 (2)	駿河台大	21"69

男子 2 部 200m 準決勝

1 組 (-0.3)
6 藤田旭洋(4) 東大 21"70
2 組 (+0.3)
6 稲葉啓人(4) 東大 21"78

男子 2 部 200m 予選

1 組 (+1.5)
2 藤田旭洋 (4) 東大 21"81 Q
1 組 (+1.9)
2 稲葉啓人(4) 東大 21"82 Q

男子 2 部 400m 決勝

1	川瀬 実来央 (3)	大東大	47"01
2	鈴木 啓太 (4)	駿河台大	47"56
3	宮崎 容樹 (4)	大東大	47"98
4	岩田 啓孝 (2)	大東大	47"99
5	工藤 大晟 (1)	駿河台大	48"03
6	相山 慶太郎 (3)	駿河台大	48"15
7	北爪 啓太 (2)	群大	48"26
8	佐藤 風雅 (1)	作新学大	48"38

男子 2 部 400m 準決勝

1 組
8 小西慶治(4) 東大 49"19

男子 2 部 400m 予選

4 組
2 小西慶治(4) 東大 48"06 Q

男子 2 部 800m 決勝

1	服部 純哉 (2)	亜大	1'51"91
2	軽部 智(3)	東大	1'52"78
3	鈴木 竜二 (3)	東国大	1'52"85
4	齋藤 未藍 (2)	青学大	1'53"53
5	大木 学 (3)	千葉大	1'54"99
6	棗 大吾 (2)	青学大	1'55"37
7	古谷 樹仁 (2)	東農大	1'59"96
-	内田 晃太郎 (4)	立大	DNS

男子2部 800m 準決勝

1組			
1	<u>軽部智</u> (3)	東大	1'52"51 Q
2組			
8	<u>加藤 騎貴</u> (3)	東大	1'59"21

男子2部 800m 予選

3組			
1	<u>軽部智</u> (3)	東大	1'55"64 Q
5組			
4	<u>加藤 騎貴</u> (3)	東大	1'54"09 q

男子2部 1500m 決勝

1	井上 弘也 (2)	上武大	3'45"57
2	茂木 亮太 (3)	青学大	4'48"31
3	吉永 竜聖 (2)	青学大	3'48"40
4	梶谷 瑠哉 (1)	青学大	3'48"90
5	佐久間 祥 (4)	亜大	3'49"30
6	永信 明人 (4)	神奈川大	3'49"64
7	新田 裕貴 (2)	東国大	3'49"72
8	中谷 圭佑 (3)	駒大	3'49"90

男子2部 1500m 予選

1組			
11	<u>渥美祐次郎</u> (4)	東大	4'00"72

男子2部 5000m 決勝

1	漬滝 大記 (4)	中央学大	13:53.93
2	戸田 雅稀 (4)	東農大	13:58.98
3	一色 恭志 (3)	青学大	13:59.38
29	<u>近藤秀一</u> (1)	東大	14:40.56

男子2部 110mH 決勝 (+1.6)

1	岸 一輝 (4)	青学大	14"41
2	佐藤 浩大 (4)	横国大	14"52
3	松永 晃雅 (3)	国学院大	14"71

4	小坂元 雄斗 (4)	桐蔭大	14"74
5	崎本 和誠 (1)	流経大	14"76
6	山本 恭平 (1)	学習院大	14"78
7	佐々木 遥圭 (2)	作新学大	14"93
8	永島 唯哉 (2)	東工大	15"26

男子2部 110mH 準決勝

1組 (+0.9)			
7	<u>宮原弘季</u> (4)	東大	15"63
2組 (+1.8)			
6	<u>杉森康平</u> (4)	東大	15"14

男子2部 110mH 予選

1組 (+0.5)			
2	<u>宮原弘季</u> (4)	東大	15"03 Q
2組 (-0.6)			
2	<u>杉森康平</u> (4)	東大	15"18 q

男子2部 400mH 決勝

1	吉井 豪 (4)	宇都宮大	52"35
2	藤田 貴也 (4)	大東大	52"42
3	宮原 弘季 (4)	東大	52"53
4	茂木 達生 (4)	大東大	53"27
5	岩野 康平 (4)	群大	53"35
6	吉田 慶次郎 (1)	駿河台大	54"75
7	渡辺 諒人 (3)	学習院大	54"82
8	水野 佑紀 (4)	立大	56"74

男子2部 400mH 準決勝

1組			
1	<u>宮原弘季</u> (4)	東大	52"22 Q

男子2部 400mH 予選

1組			
1	<u>宮原弘季</u> (4)	東大	53"20 Q
2組			

5 兄井啓太郎(2) 東大 54"14

男子 2 部 10000mW 決勝

1	<u>遠藤 克也</u> (3)	東農大	41:54.51
2	<u>斉藤 凱</u> (3)	平国大	42:23.80
3	<u>皿井 泰光</u> (4)	横国大	42:23.81
4	<u>渡邊 成陽</u> (3)	東大	43:18.33
5	<u>平田 准也</u> (3)	立大	44:46.59
6	<u>西口 克洋</u> (3)	立大	44:47.31
-	<u>宇野 文貴</u> (3)	東大	DQ
-	<u>棟重 賢治</u> (2)	東大	DQ

女子 1 部 10000mW 決勝

1	<u>松本 彩映</u> (4)	国土大	47:37.43
2	<u>福田 亜矢子</u> (4)	国土大	47:56.21
3	<u>岡部 文子</u> (5)	埼玉医大	48:09.62
	<u>宮崎愛里香</u> (4)	東大	58:43.16

男子 2 部 4×100mR 決勝

1	大東大	39.81
2	駿河台大	40.29
3	東農大	40.35
4	東経大	40.56
5	東大	40.70
6	青学大	40.81
7	作新学大	40.84
8	神奈川大	40.86
9	上武大	40.95

男子 2 部 4×100mR 予選

4 組
2 <u>東大</u> 40"72 q

男子 2 部 4×400mR 決勝

1	大東大	3'09"38
2	駿河台大	3'09"46

3 東農大 3'12"45

4 青学大 3'12"75

5 作新学大 3'13"22

6 東大 3'14"63

7 群大 3'15"07

8 東経大 3'17"04

男子 2 部 4×400mR 予選

4 組
3 <u>東大</u> 3'14"57 q

男子 2 部 走高跳 決勝

1	<u>酒井祥匡</u>	大東大	2m12
2	<u>枝裕二</u>	神奈川大	2m09
3	<u>市村脩人</u>	茨城大	2m06
3	<u>中山健</u>	都留文大	2m06
5	<u>久保田征考</u>	上武大	2m06
6	<u>小森翔太</u>	宇都宮大	2m06
7	<u>京元昭憲</u>	大東大	2m03
8	<u>中島健太</u>	大東大	2m03
9	<u>福永大輔</u>	東大	2m03

男子 2 部 棒高跳 決勝

1	<u>高須莉喜</u>	横国大	5m00
2	<u>高橋一斗</u>	清和大	4m80
3	<u>味方飛翔</u>	清和大	4m60
4	<u>鈴木大章</u>	防大	4m50
5	<u>浅井健大</u>	尚美学大	4m30
6	<u>松下周平</u>	東大	4m20
6	<u>堀尾佳希</u>	茨城大	4m20
8	<u>杉山貴哉</u>	都留文大	4m20

男子 2 部 走幅跳 決勝

1	<u>森田賢人</u>	東農大	7m52(-1.2)
2	<u>二宮聡史</u>	都留文大	7m47(-0.3)
3	<u>浅利拓</u>	千葉大	7m40(-0.3)

4	<u>西村智宏</u>	東大	7m03(-0.9)
5	浅利拓	東経大	7m23(-0.8)
6	冲崎一矢	茨城大	7m06(-1.1)
7	<u>飯島康成</u>	東大	7m03(-0.9)
8	高橋武	玉川大	7m02(-1.1)
16	<u>深澤竜太</u>	東大	6m81(-1.4)

男子2部 三段跳 決勝

1	<u>吉田郁也</u>	東大	14m94(+1.7)
2	永森大和	大東大	14m90(+1.9)
3	関口快	横国大	14m87(+0.5)
4	斉藤勇太	作新学大	14m75(+1.1)
5	丹生谷薫	東経大	14m64(+1.1)
6	西内太郎	平成国大	14m55(+1.2)
7	坂口貴志	流経大	14m40(+1.1)
8	笹岡佑裕	横国大	14m37(-0.2)

男子3部 棒高跳 決勝

1	<u>山本智貴</u>	日体大院	5m42
2	渡辺裕	千葉大院	4m50
3	<u>上野隆二</u>	東大院	4m40

男子3部 棒高跳 決勝

1	新津裕大	横国大院	7m38(-1.5)
2	中宗一郎	筑波大院	7m33(+0.5)
3	大枝優介	筑波大院	6m88(-0.7)
4	松浦晨	横国大院	5m01(-0.2)
	<u>佐渡夏紀</u>	東大院	NM

男子2部 砲丸投 決勝

1	石井 光一	ウェルネス大	15m27
2	阿久澤 奨平	平成国大	14m98
3	今 祐太	埼大	14m95
4	根本 太樹	流経大	14m63
5	待山 泰久	流経大	13m50
6	阪本 祐弥	流経大	13m21

7	宮野 涼至	東大	12m64
8	矢口 幸平	埼大	12m43
16	<u>奥村 俊樹</u>	東大	11m44

男子2部 円盤投 決勝

1	根本 太樹	流経大	47m28
2	阿久澤 奨平	平成国大	43m99
3	加藤 修	流経大	43m89
4	村岡 杏一	流経大	41m81
5	坂入 健太	大東大	41m38
6	本木 一成	関東学園大	40m09
7	矢口 幸平	埼大	38m99
8	今 祐太	埼大	36m92
14	<u>宮野 涼至</u>	東大	34m14

男子2部 ハンマー投 決勝

1	根本 太樹	流経大	63m68
2	加藤 修	流経大	59m58
3	奥村 匡由	流経大	57m78
4	佐藤 優太	平成国大	55m10
5	小野 晋司	清和大	50m67
6	田中 友勝	大東大	46m71
7	山崎 修太	白大	46m27
8	大澤 康平	上武大	45m57
17	<u>鍵本 直人</u>	東大	38m52

男子2部 やり投 決勝

1	鈴木 滉平	流経大	65m31
2	松坂 圭祐	大東大	62m67
3	奥村 俊樹	東大	61m90
4	西橋 充樹	聖学院大	60m61
5	小川 健太	東経大	60m51
6	岩佐 太一郎	東農大	59m85
7	田堀 智大	立大	58m45
8	澤 友哉	帝京大	58m27

男子 3 部 やり投 決勝			
1	山瀬 貴雅	順大院	66m81
2	眞里谷 健司	筑波大院	66m16
3	平井 健太	慶大院	61m43
4	大野 克太	東大	57m42

男子 2 部 総合得点	
1	大東大 136
2	流経大 85.5
3	青学大 72
4	東大 53.5
5	東農大 53

4. 自己記録更新者一覧

(2014.10.26 ~ 2015.5.17 * 前回競歩が抜けており
ましたので掲載させていただきます。)

2014/10/26 第 53 回全日本 50km 競歩高島

20kmW 渡邊成陽 (2 年) 1:27'48"

20kmW 櫻井悠也 (2 年) 1:44'52"

11/15,16 第 241 回日体長競技会

5000m 軽部智 (3 年) 15'40"29

12/13 第 1 回国土館大学長距離競技会

10000mW 渡邊成陽 (2 年) 42'21"98

10000mW 宇野文貴 (2 年) 45'16"06

10000mW 棟重賢治 (1 年) 47'29"88

2015/1/1 第 63 回元旦競歩大会

20kmW 宇野文貴 (2 年) 1:32'35"

20kmW 棟重賢治 (1 年) 1:41'52"

10kmW 宮崎愛里香 (3 年) 54'16"

2/15 第 98 回日本陸上競技選手権大会

20kmW 渡邊成陽 (2 年) 1:27'05"

10kmW 棟重賢治 (1 年) 45'34"

3/15 第 9 回日本学生 20km 競歩選手権大会

20kmW 渡邊成陽 (2 年) 1:26'37"

20kmW 棟重賢治 (1 年) 1:35'33"

20kmW 宮崎愛里香 (3 年) 1:57'39"

4/5 第 1 回筑波大学競技会

1500m 早川航平 (2 年) 4'24"25

4/19 第 78 回東京選手権

200m 藤田旭洋 (4 年) 21"58 (+0.8)

4/25,26 第243回日体大長距離競技会

800m	藤原大樹 (2年)	2'06"58
800m	戸田賢希 (3年)	2'02"43
1500m	遠藤幸生 (2年)	4'34"20
1500m	富原健太 (2年)	4'33"28
1500m	小南直翔 (4年)	4'02"37
5000m	鈴木敦士 (4年)	15'31"52
5000m	田村和也 (2年)	15'52"71
5000m	小田貴大 (2年)	17'14"20
10000m	松本啓岐 (2年)	32'50"23

5/2,3 第89回日体大競技会

100m	泉悠太 (4年)	11"09(+0.7)
100m	藤田健一 (3年)	11"27(+0.7)
100m	松本大樹 (3年)	11"19 (+1.6)
100m	福田優貴 (2年)	11"32 (+1.3)
200m	藤田健一 (3年)	22"82 (+0.2)
400m	河野太郎 (2年)	50"56
400m	早川航平 (2年)	52"07
400m	坪浦諒子 (2年)	59"48
800m	小南直翔 (4年)	2'00"04
1500m	栗山顕多 (2年)	4'52"44
400mH	越村真至 (4年)	55"22
400mH	加来宗一郎 (3年)	55"44

5/2 第2回国士舘大学競技会

10000mW	棟重賢治 (2年)	45'42"49
---------	-----------	----------

5/4 第2回日大競技会

走幅跳	深澤竜太	7m07(+1.2)
-----	------	------------

5/4 奈良県選手権

棒高跳	松下周平	4m40
走幅跳	吉田侑弥	6m98(+0.9)

5/14,15,16,17 第94回関東インカレ

200m	稲葉啓人 (4年)	21"78 (+0.3)
400m	小西慶治 (4年)	48"06
800m	加藤騎貴 (3年)	1'5"09
110mH	宮原弘季 (4年)	15"03 (+0.5)
400mH	兄井啓太郎 (2年)	54"14
400mH	宮原弘季 (4年)	52"22
三段跳	吉田侑弥	14m94(+1.7)
走幅跳	西村智宏	7m23(-0.8)
ハンマー投	鍵本直人 (3年)	38m52
砲丸投	宮野涼治 (6年)	12m64
やり投	奥村俊樹 (3年)	61m90

5. 応援OB・OG紹介

5/14~5/17に日産スタジアムで行われました関東インカレに際し、応援に駆けつけて下さったOB・OGの方のご氏名をご卒業年順に報告いたします(敬称略)

1965年卒 渡部一之
 1968年卒 杉野信雄
 1975年卒 小手川強二
 1979年卒 一色聡
 1979年卒 中谷敬二
 1986年卒 成家秀樹
 1988年卒 寺田秋夫
 1991年卒 小野満
 1991年卒 馬場勝也
 1992年卒 内田英生
 1993年卒 遠藤巨
 1993年卒 桜井亮太
 1995年卒 難波聡
 1999年卒 明石顕
 2003年卒 高梨幹生
 2003年卒 橋本武
 2007年卒 佐野太郎
 2007年卒 林盛
 2007年卒 三好信哉

2008 年卒 月崎竜童
 2008 年卒 持永新
 2009 年卒 田中裕一郎
 2010 年卒 石川恭平
 2010 年卒 日下桃子
 2010 年卒 西川鋭
 2011 年卒 近藤堯之
 2011 年卒 斉藤瞬也
 2011 年卒 西田昂広
 2011 年卒 早川晃司
 2011 年卒 渡邊拓也
 2013 年卒 岩上佳世
 2013 年卒 大内田弘太郎
 2013 年卒 佐々木駿
 2013 年卒 鈴木理香
 2013 年卒 瀧川朗
 2013 年卒 立岡美夏子
 2013 年卒 玉谷謙治
 2013 年卒 丹家里枝
 2013 年卒 渡邊陽大
 2014 年卒 大久保翔平
 2014 年卒 鈴木彩夏
 2014 年卒 鈴木裕也
 2014 年卒 原慎一郎
 2014 年卒 堀田樹生
 2014 年卒 増田結心
 2014 年卒 増田有里子
 2014 年卒 松野智成
 2014 年卒 松原洸也
 2014 年卒 村井亮介
 2014 年卒 梁瀬将史
 2015 年卒 荒井太弥能
 2015 年卒 今須宏美
 2015 年卒 上ヶ嶋幸一
 2015 年卒 工藤健太
 2015 年卒 後藤拓矢
 2015 年卒 篠田天馬

2015 年卒 富岡真悟
 2015 年卒 中島寛貴
 2015 年卒 納朋子
 2015 年卒 二宮翔平
 2015 年卒 松本大瑚
 2015 年卒 丸野幹人
 2015 年卒 山田銀河
 2015 年卒 横田絢
 2015 年卒 吉田訓
 (以上 65 名)

ご多忙の中、お越し下さいましたことに現役部員一同、心より御礼申し上げます。

6. 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

日程	行事	場所
5/30 (土)	国公立戦	町田
7/ 4(土)	四大戦	上尾
7/ 11(土)	OB・OG 戦	駒場
8/1 (土), 2 (日)	七大戦	仙台・宮城野原
8/ 29(土)	一橋戦	一橋
9/ 11(金) ~ 13 (日)	日本インカレ	大阪・長居
10/10(土)	京大戦	駒場
10/17(土)	箱根駅伝予選会	立川

7. 連絡先 (慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：齋藤誠二

TEL : 03-5370-9370

Mail : Seiji_Saito@suntory.co.jp

学生主務：鈴木敦士

〒174-0053 東京都板橋区清水町 38-1-605

Tel : 080-6943-2138

Mail : shumu@utf.org

学生主務補：千田周平

Mail : utf.shumuho@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.utf.org>

並びに陸上運動倶楽部のメーリングリスト「utf-club」にて、部便りのメール送付を行っております。メーリングリストへの登録をご希望の方は、お手数ですが学生主務または学生主務補までご連絡下さい。

また、陸上運動部の公式 twitter アカウント「東京大学陸上運動部 @TodaiTF」にて、試合結果の速報なども行っております。ご関心のあるかたはぜひともフォローをよろしくお願いいたします。

学生主務 鈴木敦士

編集後記

部便りについてご意見がございましたら、主任の安藤までご連絡ください。(なお、部内五傑に関しましては、紙幅の都合上、次回お届けする「国公立戦号」に載せさせていただきます。あらかじめご了承ください。)

部便り主任 安藤和記
(Mail : ohzifdi9@gmail.com)